

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラムを開催

日時

2026年3月5日（木）

開催形式

オンライン開催

3月5日（木）に、第12回「新ビジネス」フォーラムを開催しました。本フォーラムは、本学の産官学連携を全国規模に広げるとともに、本学の研究資源を基に新技術・新産業の創出に寄与する連携を目指し、2015年より実施しております。

今回は、「変わらないものと変わるものが紡ぐ、文化と学びの新しいかたち」と題した、デジタル技術によって広がる文化・情報へのアクセスと、リアルな資料や技がもつ価値に着目しました。登壇者は、文化情報学部より2名、文学部より1名、免許資格課程センターより1名の計4名の教員で、図書館・古典籍・伝統芸能をめぐる「変わるものと変わらないもの」についてそれぞれの研究内容や研究成果を紹介しました。

はじめに、文化情報学部・阪田 真己子教授より、「伝統文化の未来：私達は何を残すべきか」をテーマに、これまでのデジタル技術による身体情報の計測に加え、データ工学・データサイエンスを用いて様々な伝統芸能の「わざ」を保存・継承・共有することを目指した「伝統芸能ビッグデータ」の取り組みを紹介しました。

次に、文学部・三宅 宏幸准教授より、「古典籍がもつ<情報> -過去から現在、未来へ-」をテーマに、古典籍のデジタル化や原本を未来へとつなぐことの可能性について紹介しました。

3番目の登壇者は、免許資格課程センター・佐藤 翔教授で、「変わりゆく図書館と変わらないもの」をテーマに、現代の図書館が資料提供にとどまらず、地域コミュニティの拠点や文化発信の場として役割を拡大している点と、デジタル化の時代にあっても、図書館の基本機能が引き続き重要であることを、図書館学のデータに基づき論じました。

最後に、文化情報学部・大井 将生准教授より「デジタル資料で加速する学習環境のイノベーションと学習デザインの拡張」をテーマに、教育にフォーカスしたデジタルアーカイブの活用事例として小中高の教員と図書館・博物館・企業など、多様な属性の専門家が一堂に会し、多様な資料を教材化する「S×UKILAM（スキラム）連携」や、教育現場への支援に取り組んでいる活動として国の分野横断型プラットフォーム「ジャパンサーチ」などを紹介しました。

当日は、参加者から多くのご質問やご意見をお寄せいただき、盛況なフォーラムとなりました。

■当日の講演の内容は、YouTubeでもご覧いただけます。

〔講演1〕
阪田先生



〔講演2〕
三宅先生



〔講演3〕
佐藤先生



〔講演4〕
大井先生

公開予定
なし

12th DOSHISHA UNIVERSITY NEW BUSINESS FORUM

第12回 同志社大学「新ビジネス」フォーラム 変わらないもの 変わるものが紡ぐ、 文化と学びの新しいかたち

開催日
2026年 **3月5日(木)**
10:00~13:20 (開場9:45)

開催形式
オンライン開催

事前申込制 参加費無料

定員：300名 (先着順)

※定員に達し次第、お申し込み終了とさせていただきます。

教育・文化関連機関、企業、自治体、地域文化団体等の方

講演 1 伝統文化の未来：私達は何を残すべきか



立正佼成会 立正大学 准教授 荒井 真己子

講演 2 古典籍がもつ (情報) — 過去から現在、未来へ —



文学部 国文学科 准教授 三宅 宏幸

講演 3 変わりゆく図書館と変わらないもの



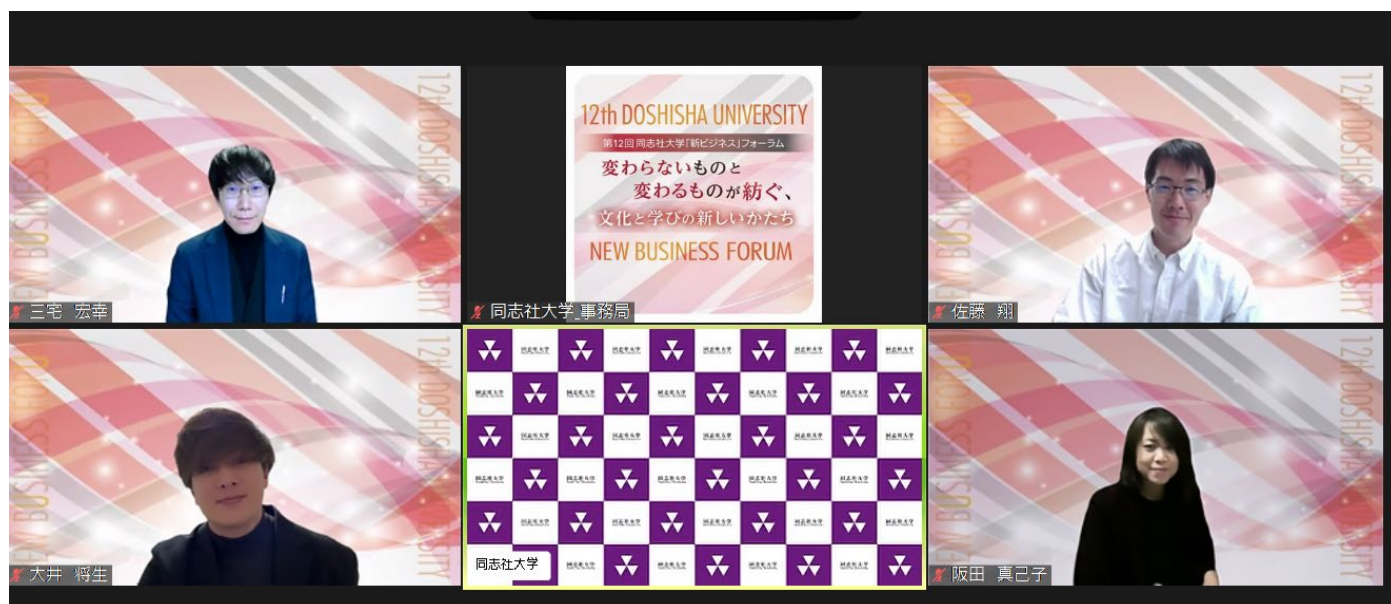
立正佼成会 立正大学 准教授 佐藤 翔

講演 4 デジタル資料で加速する学習環境のイノベーションと学習デザインの拡張



立正佼成会 立正大学 准教授 大井 将生

《講演者集合写真》



(上段、左より三宅宏幸准教授、佐藤翔教授、下段左より大井将生准教授、荒井真己子教授)